

- 多くの八代市民に支持されている「八代市厚生会館のホール再開を求める会」を代表して記者会見をする。私たちの会は1万人を超す市民の思いに支えられて活動している。
- 八代市民の負託を受けた市議会が、八代市厚生会館廃止条例を多くの市民の願いにも関わらず、十分な論議を尽くさないまま賛成多数で決議したことに失望している。
- 八代市民の10分の1に相当する1万筆以上の「八代市厚生会館のホール再開を求める請願」署名を提出したが、受け入れられなかった経緯がある。1万人を超す市民の思いになぜ向き合ってくれないのか、残念というしかない。
- 厚生会館を廃止しようとする方針は、採算性が良くないという理由をつけ、早くから考えられていたという事は、時系列をたどれば推測される。そのきっかけにしたのがでんでん館の建設。厚生会館の会議棟を改修といいながら解体撤去。でんでん館落成と同時に厚生会館ホールの再開といいながら突如休館、そして閉館。そして今回の廃止条例案提出と可決。シナリオ通りの流れと言わざるを得ない。

閉鎖の理由に挙げたことも、市民に諦めさせるために誇張された内容ではいか。例えば、再開には20億円必要というが、建築専門家は2億円と失われた電源、空調設備の5億円の合わせて7億円あれば可能と試算している。なぜ電源・空調設備を廃棄したのかも理解に苦しいこと。

特に問題と思ったことは、大規模な改修への変更理由。市が行った劣化度調査報告では、「部分的なコンクリートの中性化や軽微なクラック等は確認されたが、（中略）大きな損傷や劣化はない状況。構造体としては直ちに大規模改修が必要な状況ではないと判断する。」中でも「コンクリートの中性化深度はほとんどゼロ」とあり、これは驚異的な数値だと専門家も驚いている。ところが、政策会議資料では「鉄筋腐食によるコンクリートの爆裂破壊が多数みられるため、外壁やバルコニーの大規模な改修が必要」と書き換えられていること。

市は耐用年数 60 年過ぎて老朽化したというが、ここでいう耐用年数とは「法定耐用年数」で課税の基本のことであり、寿命のことではない。実際の「物理的耐用年数」いわゆる寿命はコンクリート等の構造や建築資材等の劣化状況で判断されるもの。だから、100 年を超えた建築物は多数みられる。

政治はガラス張りであってほしい。市民に正直に伝え、多様な意見を求め、結論を急がず、市民とともに考える政治であってほしい。

●厚生会館は本物の舞台芸術に触れることのできる、社会教育、生涯学習の重要な施設であり、採算性を求める営利施設ではない。教育施設は、学校を含め採算性を求めるべきものではない。坂田道男元市長が理想とした「田園、工業、文化都市」をもとに。教育、文化、芸術を愛する品格ある市民の育成、その殿堂として厚生会館が作られた。それはひいては八代市民としての誇り、企業誘致、経済発展など八代

市の活性化に寄与してきた、それが厚生会館ではないかと云える。

坂田道男元市長の崇高な政治理念に学んでもらいたい。

●かつて著名な舞台芸術家たちはこぞって厚生会館を賞賛した。

俳優の東野英次郎、宇野重吉、能楽師の野村萬斎、ロック歌手の矢沢永吉、オーケストラの日本フィルハーモニー交響楽団、チェコフィルハーモニー交響楽団。なかでも、クラシックファンならだれでも知っているフランスのチェロ奏者、ピエールフルニエは、日本で演奏するなら三か所、東京、大阪、そして厚生会館だといったという。

かつては、このような多くの著名な芸術家たちが次々と厚生会館で上演した。これには厚生会館のスタッフの意欲的な企画運営があったからこそである。その後、有能なスタッフは入れ替わり、企画運営も低調になり、採算性が振るわなくなってきた。それは厚生会館のせいではない。品格ある市民の社会教育、生涯学習より、金銭的利益を優先した政策がもたらしたことではないか。

●厚生会館廃止条例が可決されたことで、八代市はいつでも解体撤去ができる条件ができた。しかし、本会は再開に向けて新たな取り組みを展開する予定である。解体撤去には億単位の財源が必要とされるので、すぐに解体とはならないと思うが、一部解体などという事は絶対にしないでほしいと切望する。

●もしかしたら、数年のうちに惜しまれながら厚生会館は解体され、姿を消すかもしれないが、令和5年7月25日、廃止条例を発議した

市長、賛成した議員の名前は多くの市民の胸に深く、長く刻まれるであろう。

●7月30日（日）に第2弾のシンポジウム「どうする！八代市厚生会館」を桜十字ホールやつしろで開催する。

基調講演に DOKOMOMO JAPAN の代表理事渡辺氏と副代表理事鰐坂（あじさか）氏、パネラーに熊本県立大准教授チョン・イルジ氏と元八代市職員で日本建築学会の原田氏を迎える。市民の意見もうかがい、厚生会館がある価値を生かしながら使い続けることの意味などを考え合いたいと企画している。ぜひ、多くの市民に参加してほしい。中村市長にも職員とともに参加されるよう案内をしている。報道各社もぜひ取材をしていただきたい。

令和5年（2023）7月25日

八代市厚生会館のホール再開を求める会